

管轄森林管理局・署	関東森林管理局 静岡森林管理署
所在地	静岡県裾野市、富士宮市、富士市
面積	1,027.09 ha
設定年	1991(H3)年
保護林の概要 (設定目的)	富士山の山腹には、日本の低山帯から高山帯にわたる植生の垂直分布が模式的に存在し、太平洋気候区の典型的な森林として維持されており、当該地域の代表的な群落を主体とする地域固有の生物群集を有する森林を保護・管理することにより、森林生態系からなる自然環境の維持、野生生物の保護、遺伝資源の保護、森林施業・管理技術の発展、学術の研究等に資するため設定した。



カラマツ低木群落(2019.09.28撮影)



ウラジロモミ群落(2019.11.07撮影)

## モニタリング調査概要

実施年度	2009年、2014年、2019年
調査項目	樹木の生育状況調査、林床植生の生育状況調査、動物調査等
調査手法	森林詳細調査として、カラマツ、ウラジロモミ等の生育地において調査プロットを合計8箇所設定し、樹木の胸高直径、樹高の計測及び植生の種組成の概要を把握。動物調査として、調査プロットまでの経路に2つ調査ルート設定し、保護林内における出現種を把握。森林生態系多様性基礎調査の結果も活用。
結果概要	亜高山帯の針葉樹天然林、溶岩流上のヒノキ群落は、高木、亜高木については健全に生育している。ニホンジカの痕跡が複数確認されており、プロット内の低木層、草本層に、ニホンジカの採食圧による植被率の低下が見られる。ブナ帯の上部では、大径木についても枯損が進行している。ニホンジカによる採食圧により、今後群落構造や下層植生に変化が生じる可能性がある。

※モニタリング調査の詳細情報については、森林管理局にお問い合わせください。